REPORT

第6回 日本臨床薬理学会 東海･北陸地方会を終えて

福井大学血液･腫瘍内科
山　内　高　弘

会　期：2022年7月30日（土）11：30〜16：35
会　場：完全Web開催
会　長：山内高弘（福井大学血液･腫瘍内科）
テーマ：高齢者医療に求められる臨床薬理イノベーション

日本臨床薬理学会は，1969年に設立された臨床薬理学研究会を基としています．本会は動物実験による薬理学的知識はヒトで確かめられたうえで臨床に応用すべきであるとの立場に立ち，新薬の臨床評価の重要性を認識して，科学的基盤に立脚する薬物治療学の確立を目標に掲げました．1980年には現在の日本臨床薬理学会となり，2016年からは全国6支部による地方会が開催されることとなりました．そして，この度私は大会長として，第6回 日本臨床薬理学会 東海･北陸地方会（2022年7月30日開催）の機会をいただきました．当初2020年開催を仰せつかりましたが，新型コロナウイルス感染症の猛威により中止を余儀なくされました．その後，本感染症の流行はいったん沈静化したように見えたものの，今年2022年に入り新しく登場したオミクロン株による急速な感染拡大が生じ，人の流れが抑制されないまま医療の混乱とひっ迫が生じ，現在に続いております．しかしながら，新型コロナウイルスが猛威を振るう中，2021年に林 秀樹会長（岐阜薬科大学）によりハイブリッド形式の第5回 地方会が開催され成功裡を収められました．それを拝見いたしこの度もう一度機会をいただき，完全Web形式ではありますが本会を開催させていただくことができました（**Photo**，**Figure**）．関連諸先生方，本部事務局・支部事務局の皆様方のお力添えに心より御礼申し上げます．

当日は130余名の皆様にご参加をいただき，ランチョン

Photo.　Web開催の様子（開会の挨拶）

Figure　地方会案内ポスター

著者連絡先：山内高弘　福井大学血液･腫瘍内科　〒910−1193 福井県吉田郡永平寺松岡下合月23−3
TEL：0776−61−3111　FAX：0776−61−8109　E-mail：tyamauch@u-fukui.ac.jp
投稿受付2022年8月29日，掲載決定2022年9月21日
ISSN 0388−1601
Copyright：©2022 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics（JSCPT）

Table　地方会プログラム

ランチョンセミナー	**11：30〜12：30**
座　長：根来 英樹（福井大学医学部附属病院 血液･腫瘍内科）	
演者①：佐藤 信恵（国立がん研究センター東病院 薬剤部）	
「BTK 阻害剤の副作用管理を中心とした薬剤師外来の取り組み」	
演者②：湯田 淳一朗（国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科）	
「CLL 治療の Up To Date〜カルケンスによる CLL 治療の実際も踏まえて〜」	
開会の挨拶	**12：30〜12：35**
山内 高弘（福井大学 血液･腫瘍内科）	
教育講演	**12：35〜13：25**
座長：山田 浩（静岡県立大学薬学部 医薬品情報解析学分野）	
演者：中西 亜紀（厚生労働省老健局 厚生労働技官（認知症担当））	
「今日の認知症の診断と治療」	
（15 分間休憩）	
一般演題（口演）	**13：40〜15：10**
座長：林 秀樹（岐阜薬科大学 地域医療実践薬学研究室）	
座長：細野 奈穂子（福井大学 血液･腫瘍内科）	
座長：近藤 一直（藤田医科大学医学部 薬理学）	
座長：岸 愼治（仁愛大学人間生活学部 健康栄養学科）	
18 演題	
（10 分間休憩）	
特別講演	**15：20〜16：20**
座長：山内 高弘（福井大学 血液･腫瘍内科）	
演者：後藤 伸之（福井大学医学部附属病院 薬剤部）	
「医薬品情報を“受けとる”“伝える”難しさ」	
次回開催について	**16：20〜16：25**
次回会長：近藤 一直（藤田医科大学医学部 薬理学）	
優秀演題賞の発表	**16：25〜16：30**
山内 高弘（福井大学 血液･腫瘍内科）	
閉会の挨拶	**16：30〜16：35**
山内 高弘（福井大学 血液･腫瘍内科）	

セミナーから始まり，教育講演，18 題の一般演題，最後に特別講演と計 5 時間の濃密な会となりました（**Table**）．一般的な夏休み期間での開催でしたので観光も兼ねて福井においでいただけますとよろしかったのですが，逆に Web 開催といたしたことで，遠方の先生がたも気軽にご参加いただけたのではと思います．第 6 回のテーマは「高齢者医療に求められる臨床薬理イノベーション」といたしました．私の専門の血液がん領域でも患者さんの過半数は 65 歳以上の方々であり，副作用が少なく効果の高い新規薬剤，特に内服薬，が少しずつ登場してきております．

ランチョンセミナーでは根来英樹先生（福井大学医学部附属病院 血液･腫瘍内科）座長のもと，佐藤信恵先生（国立がん研究センター東病院 薬剤部）の「BTK 阻害剤の副作用管理を中心とした薬剤師外来の取り組み」，湯田淳一朗先生（国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科）の「CLL 治療の Up To Date 〜カルケンスによる CLL 治療の実際も踏まえて〜」のご講演をいただきました．慢性リンパ性白血病（CLL）の発症年齢の中央値は 70 歳と高齢者に多いのですが，新規経口薬としてブルトン型チロシンキナーゼ（BTK）阻害薬，B-cell lymphoma-2（Bcl-2）阻害薬が導入され治療法が大きく変わりました．BTK は B リンパ球活性化に関わる重要な分子で，Bcl-2 は内因系アポトーシス経路における抗アポトーシス分子の一つです．これらが阻害されることで慢性リンパ性白血病細胞の増殖・不死の経路が抑制されることになります．これら 2 薬の登場で CLL の治療は大きく進歩しました．

ランチョンセミナーに引き続いて，教育講演では山田浩先生（静岡県立大学薬学部 医薬品情報解析学分野）座長のもと，中西亜紀先生（厚生労働省老健局 厚生労働技官（認知症担当））より「今日の認知症の診断と治療」についてのご講演をいただきました．2011 年の介護保険法改正，2012 年の認知症施策推進 5 か年計画（オレンジプラン），2015 年の認知症施策推進総合戦略〜認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて〜（新オレンジプラン），2019 年の認知症施策推進大綱，の一連の流れの中で，「地域包括ケアシステムの実現」という基本方針に基づき，認知症の

方々が自分らしく暮らし続けることができる社会の実現に向けた取組みが進められている．認知症の発症を遅らせ，認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策が勧められていることを学びました．また，2021 年 6 月に米国食品医薬品局で承認されたアルツハイマー型認知症の治療薬「アデュカヌマブ」が我が国で承認されなかった点についても先生のお考えを拝聴しました．

引き続いての一般演題は18題と大変多く，各ご施設からご発表をいただきました．林 秀樹先生（岐阜薬科大学 地域医療実践薬学研究室），細野奈穂子先生（福井大学 血液･腫瘍内科），近藤一直先生（藤田医科大学医学部 薬理学），岸 愼治先生（仁愛大学人間生活学部 健康栄養学科）に座長をお願いし，2 会場にて活発な討論が行われました．その中から特に優れたご発表として，岐阜大学医学部附属病院 薬剤部 渡辺大地先生「ネットワークメタ解析を用いた Carboplatin を含む MEC に対する 3 剤併用制吐療法施行時の Dexamethasone 投与日数の検討」，岐阜薬科大学 地域医療実践薬学研究室 清木静乃先生「保険薬局におけるステロイド性骨粗鬆症予防に対する薬物療法の現状調査」，静岡県立大学 薬学部実践薬学分野 三浦基靖先生「Limited sampling 法を用いたカクテル試験によるシトクロム P450 阻害作用の評価」，名古屋大学医学部附属病院 ゲノム医療センター 近藤千晶先生「名大病院における包括的ゲノムプロファイリング検査の現状」，の 4 名の先生方に優秀演題賞を授与させていただきました．

最後の特別講演は後藤伸之先生（福井大学医学部附属病院 薬剤部）に「医薬品情報を“受けとる”“伝える”難しさ」という演題でご講演をいただきました．医薬品は，それがどんなに有効性の高い医薬品であっても，適切に使用されるための情報が備わっていなければ，医療に貢献することができない．医薬品の情報は，「製薬企業が当該薬の有効性・安全性・使用法などの医薬品情報を医療者に伝える」→「医療者はその情報を評価して実臨床の中でその薬をどの様に使いこなすかを考える」→「患者さんには薬剤使用に際して医療者から十分なインフォームド コンセントがなされる」，と伝達されていく．この一連の流れの中で，医療上さまざまな問題が発生しうる．この，製薬企業→医療者→患者の流れの中で情報を「受けとる」のも「伝える」のも医療者であり，その立ち位置と役割は適切な薬物治療において要となることを勉強いたしました．

最後に来年度会長の近藤一直先生（藤田医科大学医学部薬理学）のご挨拶をいただき，私山内より閉会のご挨拶を申し上げました．日本臨床薬理学会は臨床薬理の切り口から臓器横断的であること，また，薬を介して，医師，薬剤師，臨床研究コーディネーター，企業様などさまざまな立場の医療関連職が，一つの会場でディスカッションができることが大きな特徴です．その意味で，Web 開催ではありましたが，活発な学術的ディスカッションの中たくさんの勉強をさせていただく密度の濃い会になったのではと拝察しております．この場をお借りして，ご参加をいただきました皆様方，地方会運営に尽力いただきました根来英樹先生，細野奈穂子先生，竹内比登美様に厚く御礼申し上げます．この度は地方会開催の機会をいただき誠にありがとうございました．